

研究主題 「よりよい社会を築こうとする子どもを育てる社会科学習」 — 自ら考え判断し、進んで社会に働きかける力の育成 —

栃木県小学校社会科教育研究会

第6学年提案

足利支部

提案者 足利市立筑波小学校 柏瀬順一

授業者 前足利市立南小学校 小町雅史

(現石川県教員)

1 小単元名 世界には、どんな人々のくらしが見られるの

2 学習指導要領の目標及び内容分析

本単元は、学習指導要領「社会」第6学年の目標(2)(3)を踏まえ、内容(3)のア及び内容の取り扱い(3)に基づいて設定されたものである。

目標(2)について

日常生活における政治の動きと我が国の政治の考え方及び我が国と関係の深い国の生活や国際社会における我が国の役割を理解できるようにし、平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きていくことが大切であることを自覚できるようにする。

「我が国と関係の深い国の生活や国際社会における我が国の役割」については、我が国との関係の深い国の生活や文化と我が国のそれらとの相互理解を図ることが大切であることや、今日我が国は経済や文化の交流などで世界の国々と深いつながりを持っていることを理解できるようにするとともに、我が国は平和な国際社会の実現に向けて国際交流や国際協力を行っていることや、我が国が国際社会において重要な役割を果たしていることを理解できるようにすることにねらいがある。

態度目標である「平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きていくことが大切であることを自覚できるようにする」とは、我が国は日本国憲法に基づいて戦後一貫して平和な国際社会の実現を目指して努力してきており、これからも国際社会の一員としてその努力を続けていくことが大切であるという自覚や、そのためには平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きていくことが大切であるという自覚を育てるようになることである。

この目標を実現するためには、内容(3)の指導を通して、平和な国際社会の実現のためには国際理解や国際協力が大切であることや、そのための我が国の役割を理解し、平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きていくことが大切であることを自覚できるようにすることが大切である。

目標(3)について

社会的事象を具体的に調査し、地図や年表などの各種の基礎的資料を効果的に活用し、調べたことを表現するとともに、社会的事象の意味をより広い視野から考える力を育てるようになる。

「社会的事象を具体的に調査し、地図や年表などの各種の基礎的資料を効果的に活用し、調べたことを表現する」力を育てるとは、我が国の国際理解に関する社会的事象を具体的に調査したり、各種の基礎的資料を効果的に活用して調べたり、調べたことを目的に応じた方法で表現している力を育てるようになることである。

「社会的事象の意味をより広い視野から考える力」を育てるとは、我が国と関係の深い国人々の生活や国際社会における我が国の役割について、国際社会の一員としての立場から平和な国際社会の実現のための我が国の役割を考える力を育てるようになることである。

この目標を実現するためには、国際理解に関する社会的事象を具体的に調査したり、各種の基礎的資料を効果的に活用して調べたり、さらに、調べたことを目的に応じた方法で表現したりする。また、調べたことや表現したことに基づいて、社会的事象の意味をより広い視野から考えることができるようになることが大切である。

内容(3)のア及び内容の取り扱い(3)について

世界の中の日本の役割について、次のことを調査したり地図や資料などを活用したりして調べ、外国の人々と共に生きていくためには異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であること、世界平和の大切さと我が国が世界において重要な役割を果たしていることを考えるようにする。

「調査したり地図や資料などを活用したりして調べ」とは、ここでの学習の仕方を示している。ここでは、教科書のほかに学校や公共の図書館を活用したり、地域の留学生や外国人から直接聞き取り調査をしたりするなどして具体的に調べ、我が国とのつながりの深い国の人々の生活の様子や文化や習慣の違いについての理解を深めるようにすることが大切である。また、地図の活用については、地球儀や世界地図を用いて、我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の国名や位置を確認したり、日本から見た方位などを調べたりするなどして世界地図を活用する能力を育てるとともに、世界の国々や地域に関心を持つようにする。

「外国の人々と共に生きていくためには異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であること」を考えるようにするには、我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活の様子を調べることによって、外国の人々の文化や習慣の違いについてふれ、その違いを理解し尊重することが、外国の人々と共に生きる上で大切であることを考えることができるようにすることである。その際、これまでの学習で身につけた自国に対する理解との関連を図りながら、外国の異なる文化や習慣を適切に理解できるよう配慮する必要がある。

ア 我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の生活の様子

「我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の生活の様子」について調べるとは、我が国と貿易や経済協力などの面、歴史や文化、スポーツなどの交流の面などでつながりが深い国を取り上げ、それらの国々の人々の生活の様子を具体的に調べることである。人々の生活の様子については、例えば、衣服や料理、食事の習慣、住居などの衣食住の特色や、国民に親しまれている行事、学校生活や子どもの遊び、あいさつの仕方やマナーなどの習慣などを取り上げることが考えられる。外国の人々との異なる文化や習慣を理解し関心を深めるようになることは、外国の人々のものの見方や考え方を理解し、尊重することにつながるものである。

指導の実際にあたっては、教師が我が国とつながりが深い国から数カ国取り上げ、その中から、児童一人一人が自らの興味・関心や問題意識などに基づいて、調べる国を一カ国選択するようにする。その際、児童が選んだ国によって調べる資料の量などに大きな違いが生じることのないように、教師は個に応じた適切な指導を心がけることが大切である。そのためには、例えば、学校図書館の利用や留学生などを招いて話を聞く活動などが考えられる。この様にして、様々な外国の文化を具体的に理解できるようにするとともに、我が国や諸外国の文化や伝統を尊重しようとする態度を養うことが大切である。

これらの学習を通して、外国の人々ともに生きていくためには、異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であることを考えることができるようにする。

内容の(3)については、次の通り取り扱うものとする。

ア アについては、我が国とつながりが深い国から数カ国を取り上げること。その際、それらの中から児童が一カ国を選択して調べるよう配慮し、様々な外国の文化を具体的に理解できるようにするとともに、我が国や諸外国の文化や伝統を尊重しようとする態度を養うこと。

ここでは、我が国とつながりが深い国から三カ国程度を取り上げ、その中から児童一人一人が自ら興味・関心や問題意識などに基づいて一カ国を選択して自分の力で調べることができるようにする必要がある。その際、取り上げる国が特定の地域に偏らないように配慮することが大切である。

指導にあたっては、児童に選択の仕方を身につけるようにすることが大切である。また、地域の留学生など外国人との交流の場を取り入れて、児童が外国の文化を具体的に理解できるようにするとともに、それぞれの児童が選択して調べた国の人々の生活の様子を互いに発表し合う場を設けて、児童の考えを深め合うことができるよう配慮する。このような外国の文化の理解を通して、我が国や諸外国の文化や伝統を尊重しようとする態度を養うようにすることが大切である。

3 児童の実態(男子17名 女子18名 計35名)

①社会科への関心・意欲・態度について

「社会科が好きですか」という質問に対して、「好き」が25名、「少し好き」が10名で、クラスの全児童が社会科が好きと答えた。理由は「歴史が好き」「昔のことを知るのがおもしろい」「ニュースに出る地名が分かるようになる」「地図帳での学習がおもしろい」「いろいろな国つながりがわかって楽しい」など様々であり、歴史分野、地理分野の双方に対して関心が高く、意欲的である。しかしながら、好きと答えながらも用語を覚えることを少し苦手としている児童もいる。

②学習形態について

グループでの学習を好む児童が20名で、その主な理由として、「みんなで調べた方がたくさんの資料が集まる」「人数が多い方が新しい発見がある」「わからないところは聞くことができる」をあげている。一方、個人での学習を好む児童が15名おり、「自分のペースで勉強したい」「グループだと意見がまとまらない」「一人の方が個性を出せる」と理由を挙げている児童もいて、全てをグループ学習にすることは望ましくないと考え。そこで、本単元では個人で調べる時間と、グループで学び合う時間のとれるいわゆるジグソー学習を取り入れて、調べ学習を進めていきたい。

③日本との関係が深いと思われる国について

日本との関係が深いと思われる国を一人3つ挙げさせたところ、順にアメリカ(30名)、中国(26名)、オランダ(13名)、韓国(9名)、イギリス(4名)、北朝鮮(3名)であった。アメリカを選んだ理由は、「貿易相手」「日本の総理大臣がアメリカの大統領に会っている」「歴史によく出てくる」「日本にアメリカの基地がある」などを挙げている。中国については、「歴史的なつながり」「中国製のものが多い」ということが圧倒的に多く、オランダについては、「江戸時代の貿易相手」ということで挙げている。韓国については、「一番近い国」「テレビでよく見る」という理由を挙げている。

④ホームステイについて

「ホームステイしてみたいですか」という質問に対し、22人がしてみたいと答えた。その理由は「外国の人とふれあいたい」「その国の日常を知りたい」「その国の言葉が得意になりそう」など、様々な理由を挙げている。しかし、13人がホームステイしたくないと答えており、「気まずい」「もし自分の家に外国人がいたらいやだ」など、ホームステイに対して消極的にとらえている児童もいる。そこで、本単元の導入に、ホームステイ経験者からホームステイについて話を聞く時間を設け、児童がホームステイに対して少しでもよいイメージを持ちながら、学習をすすめられるようにしたい。

⑤対象児について

〈対象児A〉

社会科への興味・関心が高く、積極的に学習に取り組んでいる。また、自分の意見をみんなの前で発表することができ、グループで話し合いをするときなどは、中心となって話を進めることができる。

日頃からテレビでニュースをよく見ており、地名や社会に関係する言葉をよく知っている。世界の国々にも興味・関心が高く、日本との関係が深い国については、中国、韓国、アメリカの順に挙げている。ホームステイについても「してみたい」と答えている。

〈対象児B〉

社会科への興味・関心はそれほど高くないが、課題に対してまじめに取り組むことができる。思考力があり、資料を読み取る力も高いが、人前で発表することは得意としていない。

世界の国々には関心が高く、日本との関係が深い国については、韓国、アメリカ、オランダの順に挙げている。ホームステイについては、「したくない」と答えている。

4 小単元の展開構想

研究の視点 I よりよい社会を築こうとする子どもを育てるための学習内容の明確化

○よりよい社会を築こうとする子どもを育てるための学習内容の明確化。
(現行学習指導要領を基本としながら、取り入れたい内容・視点)

環境的な側面

・それぞれの国々は、気候・地形などの自然環境を生かした生活を営んでいることを考えること。
(環境との調和とかかわり)

・それぞれの国の自然環境の特徴について考えること。
(自然環境とかかわり)

・それぞれの国々では、自然環境からもたらされる資源やエネルギーがあることを考えること。
(資源やエネルギーとかかわり)

産業・経済的な側面

・資源や自然環境を生かした、それぞれの国々の産業について考えること。
(産業とかかわり)

・日本の産業や経済は、それぞれの国々と結びついていることを考えること。
(グローバル化とかかわり)

社会・文化的な側面

・それぞれの国々ではそれぞれの宗教や民族などに基づいた生活が営まれていることを考えること。
(宗教・民族とかかわり)

・自然環境を生かした特色ある生活について考えること。
(自然環境とかかわり)

・文化の面で、日本が影響された面や日本が影響を与えたことを考えること。
(国際交流に関わること)

・日本もそれぞれの国と結びついて、国際社会の一員としてのあり方を考えること
(国際理解とかかわり)

○単元の学習内容構造図(産業とのかかわりと国際理解とのかかわりの視点から)

【この単元で総合的にとらえさせたいこと】

世界には日本と経済や文化の面でつながりの深い国があり、それらの国では、人々は日本とは違った独自の文化や習慣をもって生活している。

日本の私たちには、生活の様々なところでそれぞれの国々と結びついていることを意識し、(産業とのかかわり)共に生きていくには異なる文化や習慣を理解することが大切である。(国際理解とのかかわり)

【まとめてわかること】

それぞれの国々では、民族や宗教、自然環境などにより、独自の文化や習慣がある。

【まとめてわかること】

それぞれの国の特色を生かし、資源やエネルギーをはじめ、農業や工業による生産物をそれぞれ輸出入して、お互いに結びつきがある。
(産業とのかかわり)

【まとめてわかること】

それぞれの国々の人々と共に生きていくには、異なる文化や習慣を理解することが大切である。
(国際理解とのかかわり)

【調べて分かること】

アメリカでは、英語を話し、キリスト教を信じる人達が多く住んでいるが、その人々は様々な人種や民族である。

アメリカの学校は、地域により特色があり、勉強の仕方は日本と違う点もある。

韓国の学校生活は、日本に似ているが、違うところもある。

韓国では、儒教の影響を受けた考え方が強く、伝統的な生活が残されている面が多い。

サウジアラビアの学校は、時期や男女別など日本と違う点があり、授業ではイスラム教の熱心な授業が行われている。

砂漠の多いサウジアラビアの生活では、イスラム教の教えに基づいて行われる面が多い。

【調べて分かること】

アメリカの農業は「世界の食料庫」と呼ばれ、日本をはじめ、農産物が世界に輸出されている。

アメリカの工業は、世界をリードしている。

韓国と日本の貿易は盛んに行われ、韓国の工業製品が日本に輸出されている。

サウジアラビアは、世界に向けて石油の輸出を行っている。

【調べて分かること】

アメリカでは、多様な人種・民族が、人種差別問題などを乗り越え、それぞれの文化を大切に暮らしている。

韓国と日本の人々は、古くからつながりがあり、今でも交流を行っている。

サウジアラビアは、これからは石油に頼らない国づくりを目指している。

研究の視点Ⅱ よりよい社会を築こうとする子どもを育てるための学習の工夫

○自ら考え判断し、社会に働きかける力を育てる教材の開発

(1) 子どもが主体的にかかわり問題解決への意欲を高める実社会の教材開発

今回は、次の理由で3つの国をとり挙げた。

アメリカ合衆国 日本の文化や習慣はもちろん、産業・経済に現在影響を非常に強く与え続ける国。

韓国(大韓民国) 日本に隣接する漢字文化圏の国。文化・習慣等にそれぞれ古くから結びつきがあるが、お互いに国に特徴を考えた新しい交流を作り出している国。

サウジアラビア 日本と自然条件・宗教それに民族など多くの違いがあるが、石油という資源に関して非常に結びつきの強い国。

アメリカ合衆国は、足利市の姉妹都市であるイリノイ州スプリングフィールドのある国で、お互いに人的交流を行っている国である。特に中学生では、ホームステイを互いに行っており、その成果として中学校のALTとして、交流した本人が派遣されている。

韓国(大韓民国)は、日本と同じ政治体制で、日本から1時間近く比較的行きやすい国である。日本と歴史的につながりがあり、現在も日本と同じような生活様式で暮らしている。もちろん宗教や言語に違いはあるものの、経済的な結びつきの強い国である。

サウジアラビアは、地理的・宗教的にも著しくことなる国である。砂漠乾燥地域という自然環境だけでなく、世界で信者がもっと多いイスラム教を信じる国である。しかし、資源の面では、日本が支えられている国の1つであることからとり挙げた。

(2) 社会に生きる人間の姿を追究できる教材の開発

学校や生活という、児童と共通の場面を比較することで、日本とそれぞれの国の違う点を知り、宗教や考え方に基づく生活について理解をすることができる。自分たちの生活が全てでなく、色々なスタイルがあることを知ることができると思う。

(3) 今日的な課題や視点を重視した教材の開発

それぞれ国と日本は、今までも密接な結びつきを持っている。それらの結びつきは、実際に児童の目に映ることは少ないので、それを知ることには意義はある。しかしそれだけでなく、新たな結びつきをそれぞれの国々が模索していることも忘れてはならない。たとえば、韓国とは歴史認識を通して、新たな関係を日本は作らねばならないし、石油輸出に依存しているサウジアラビアは、自国の工業化を進めていることから、日本の役割を考え直さなければならないであろう。

○自ら考え判断し、社会に働きかける力を育てる学習過程の工夫

(1) 社会とかかわり、ともに学び、考えを深め合うことができる学習過程の工夫

① 社会とかかわりを持って学ぶことができる学習過程

ここでは、単に知識を調べるのではなく、「ホームステイ」することを前提に各国の様子を調べる。つまり、自分がその国の習慣や生活様式にどう対応すればいいかという視点が与えられる。それにより、一日の中でどのように過ごすか、また学校ではどんな風に学ぶか等、具体的なことがらを調べる必要が出てくるであろう。

②ともに学び、考えを深め合うことができる学習過程

本小単元では、ジグソー学習を行う。この学習方法で、他人に頼らず自分から調べた各国の様子を理解し、他の児童への説明を行う。その説明の中で、自分が分かっていたつもりでも、理解が不十分であったことが分かって調べ直したり、分からない児童へ教えたりすることができる。

③社会と自分とのかかわりを意識し、学習のめあてを明確にもてる学習問題の工夫

今回は、「ホームステイをする」という状況を設定し、その国について調べる。これにより、国々の基本的な知識の他、学校や生活面について調べる視点が生まれる。そのことで、日本との比較ができ、その国の生活に根ざしている考えなどを浮き出すことができると考えた。

○自ら考え判断し、社会に働きかける力を育てる学習活動と支援、評価の工夫

(1)人や社会とのかかわりを大切に学習活動と支援の工夫

児童の生活では、なかなか世界の国々との結びつきを見ることは難しい。そこで、学校生活や家庭での過ごし方などに視点を与え、児童の目の高さから日本と同じ点や違う点を調べていく。そして、違う点が出てくる訳を考えさせ、自然環境や宗教などがその背景にあることを知らせるよう、まとめながら支援を行う。

(2)社会を実感し、考え判断する力を育てる体験的な活動と支援の工夫

今回調べる国については、教科書に掲載されており、その内容だけでも十分なものである。しかし、「ホームステイ」を考えると、むしろガイドブック的な内容もあるし、インターネット上にある体験記なども有効であろう。だが、実際の人から聞いたり、尋ねたりすることができれば、リアルタイムの様子を知り、疑問を解決することができ、大変効果的である。そのため、その国の出身者や滞在経験者からの聞き取りの場面を設定する。

(3)ともに学び、考えを深め合う活動と支援の工夫

友達の考えをどう自分の考えと合わせるかという点で、他人に任せず、自分の考えを持って、相手に説明するという場面をジグソー学習で設定する。このことは、全てを個人の責任にすることを意味するのではなく、必要に応じて他の児童が助けたり、教師の支援を行ったりすることである。

つまり、学習する児童どうして調べた国の様子の情報を共有する場面を設けることにより、教える児童はそれを伝え、一方の児童は理解しようとする。その中でそれぞれの意見を交換し、必要に応じて援助を求めたり、調べ直したりするのである。時間がかかるかもしれないが、分かったつもりである児童自身の認識が行われるであろう。

(4)自ら考え判断し、社会に働きかける力を育てる評価と指導・支援の工夫

児童が各国を調べた際、内容の多少があることは否めない。そのため、調べるときは、教科書から先ず調べるさせる。これにより、基本的な情報を共有でき、押さえる状況を把握できる。そこで先ず調べるシートなどを工夫して、内容・表現方法などで賞賛する。そして、ホームステイにおける自分の興味の視点を与え、他の児童にはない点をアピールさせる。これにより、自分自身の問題として調べを進めることができるであろう。そのなかで、よい内容や努力の姿を認めていく。

なお、社会に働きかける力を評価するにあたり、今回は他との違いをを図るため、自分で特にお勧めしたい点を、パンフレットなどの表現活動の際に、訴えるように工夫しているかどうかを確認していきたい。

5 小単元の目標と小単元の評価規準

(1)小単元の目標

我が国と経済や文化などの面でのつながりの深い国に興味・関心にもとづいて選び、人々の生活の様子を教科書などの基礎的資料を活用して調べ、外国の人々と共に生きていくためには異なる文化や習慣を理解しあうことが大切であることを考えることができる。

(2)小単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	観察・資料活用の 技能・表現	社会的事象についての 知識・理解
<p>① 日本とのつながりが深い国々の人々の生活に関心をもち、意欲的に追究している。</p>	<p>① 日本とのつながりが深い国々の人々の生活はどんな様子なのか学習問題をつかみ、見通しをもって追究している。</p>	<p>① 教科書などの基礎的資料を活用して、とくに関係の深い国々の人々の生活について、次のことを調べている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国のあらまし ・ 学校での生活, 家庭での生活 ・ 祭りや行事など 	<p>① 日本と世界とは、スポーツや文化の面ばかりでなく、政治や経済、生活の面でもつながりがあることを理解している。</p>
<p>② 平和を願う日本人として、世界の国々と願いを共有して生きていくことが大切であるとの自覚を持つようとしている。</p>	<p>② 外国の人々と共に生きていくためには、異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であることを考えている。</p>	<p>② 調べた過程や結果を、目的に応じた方法でわかりやすく表現し、伝えている。</p>	<p>② 我が国と、経済や文化などの面でのつながりの深い国々の人々の生活の様子を理解している。</p>

6 小単元の基本的な展開計画と評価計画(総時数 9時間)

選時	ねらい	主な学習活動	資料	教師の支援	主な評価
1	○日本と世界の国々との様々なつながりについて考えることができる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">日本は現在、世界の国々どのようなつながりがあるのか考えよう。</div> ○教科書の資料をもとに日本と外国の関係を考え、話し合う。 ・韓国の人には日本にたくさん住んでいる。 ・アメリカにはたくさんの方が訪れている。 ・石油はサウジアラビアからたくさん輸入されている。	・地球儀	・地球儀を使いながら世界の国々に目を向けさせる。 ・資料をもとにして日本とつながりの深い国について考えさせる。	□日本と世界の国々との様々なつながりについて考えることができたか。(発言)
つかむ・見通す(2)	○ホームステイの意味や目的について理解し、ホームステイしたい国を調べる計画を立てることができる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">ホームステイについて知ろう。</div> ○海外にホームステイする学生数の変化のグラフを見たり、ホームステイ経験者の話を聞いたりする。 ・ホームステイするにはどうしたらいい。 ・言葉はどうしたらいい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">ホームステイしたい国を選び、調べる計画を立てよう。</div> ○資料を見てホームステイしたい国を選ぶ。 ・アメリカ ・韓国 ・サウジアラビア ○調べる計画を立てる。	・ホームステイする学生数の変化のグラフ ・地図帳 ・ワークシート	・ホームステイ経験者に話してもらった内容について事前に打ち合わせをしておく。 ・3つの国の特徴が視覚的にわかる資料を用意する。(写真、VTR等)	□ホームステイや外国に関心をもち、ホームステイしたい国を決め、調べる計画を立てることができたか。(発言、ワークシート)
調べる・まとめる 3・4	○ホームステイしたい国について資料を活用して調べることができる	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">ホームステイしたい国の文化、産業、生活習慣などについて調べよう</div> ○課題別グループで家庭生活や産業について調べる ○課題別グループで集まって、情報を交換したり、補ったりする。	・教科書 ・個人で集めた資料 ・ワークシート	・教科書以外の資料を用意する。 ・必ず調べる項目を知らせる。	□ホームステイしたい国について資料を活用して調べることができたか。(ワークシート)

調べる・まとめる(4)	5	<input type="checkbox"/> 課題別グループで調べたことを元グループで発表することができる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 課題別グループで調べたことを、元グループの人に伝えよう。 </div> <input type="checkbox"/> 元グループでそれぞれの国の家庭生活と産業について発表しあう。 (アメリカ) ・衣食住や学校の様子 ・自由と自己責任の国 (韓国) ・オンドルの利用 ・韓国料理の特色と背景 (サウジアラビア) ・生活の基本であるイスラム教 ・産業の特色と未来への投資 <input type="checkbox"/> 元グループ内でお互いに質問をする。	<input type="checkbox"/> 調べたことをまとめた表	<input type="checkbox"/> 前時までに調べたことを表にまとめておく。	<input type="checkbox"/> 課題別グループで調べたことを元グループで発表することができたか。
	6 本時	<input type="checkbox"/> 前時に受けた質問の答えを課題別グループで話し合う。 <input type="checkbox"/> 元グループで質問の答えを発表しあう。	<input type="checkbox"/> 質問に係る資料	<input type="checkbox"/> 事前に質問内容を把握しておき、質問内容にあった資料を用意する。		
学び合う・社会に働きかける(3)	7	<input type="checkbox"/> もっと知りたいことをゲストティーチャーに聞くことができる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ゲストティーチャーに教えてもらおう。 </div> <input type="checkbox"/> ゲストティーチャーの話を聞く。 ・日本に来て困ったことは。 ・うれしかったことは。	<input type="checkbox"/> ワークシート	<input type="checkbox"/> 前時で出た質問を事前にゲストティーチャーに伝えておく。 <input type="checkbox"/> 日本に来て困ったことや体験談などを話してもらおう。	<input type="checkbox"/> もっと知りたいことをゲストティーチャーに聞くことができたか。
	8・9	<input type="checkbox"/> 海外の人達と仲良く生活するために大切なことについて考えることができる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 海外でホームステイをし、その国の人たちと仲よく生活していくために大切なことは何だろう。 </div>	<input type="checkbox"/> ワークシート <input type="checkbox"/> 今までの資料		<input type="checkbox"/> 海外の人達と仲良く生活するために大切なことについて考えることができたか。

学び合う・社会に働きかける ③	8・9	○ホームステイガイドブックをつくらることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ それぞれの国のよさや日本との共通点や違いを話し合う。 ○ ホームステイ先の人たちと仲よく生活していくために大切なことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・異なる文化や生活習慣を認め合う。 ・相手の国のマナーやあいさつを知り、それを尊重する。 ・お互いに親切にする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> ホームステイガイドブックを作ろう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ ホームステイガイドブックを作ろう。 <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつの仕方をのせよう ・学校の様子を知らせよう。 		<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの国の人たちの思いや考え方を大切にさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・A4用紙1枚にまとめさせる。 	□ホームステイガイドブックをつくらできたか。
-----------------	-----	---------------------------	---	--	---	------------------------

7 指導の実際

(1)とりあげた授業について

①本時の指導(6/9時)

ア 題目 前の時間に出された質問について調べ、発表しよう。

イ 目標

- ・日本と関係の深い国について質問されたことを資料から調べ、グループの中で発表することができる。

(資料活用の技能・表現)

- ・日本と関係の深い国について、さらに理解する。

(知識・理解)

ウ 授業の観点

- ・前時に出された質問について調べ、それを発表することができるか。

エ 展開

具体目標	時間	学習活動・評価	活動への支援	資料・準備
○本時の学習内容がわかる。	3分	1 前時までの学習内容を振り返り、本時の学習内容を確認する。 前の時間に出された質問についてグループで調べ、発表しよう。	・効率よく活動が進められるように、学習の流れをつかませる。	
○質問についての答えを、資料から調べることができる。	24分	2 課題別グループで集まり、前時に出された質問について調べ、話し合う。 質問についての答えを資料から調べることができたか。 (資料活用の技能・表現) ワークシート・観察	・前時に各グループ出だされた質問内容を教師が把握し、それにあつた資料を用意させたり、場合によっては教師が用意する。 ・グループでリーダーを決めておき、効率よく情報交換や話し合いができるようにする。	・資料 ・ワークシート
○調べたことを発表したり、友達の発表を聞いたりすることができる。	15分	3 元グループで集まり、調べたことを発表する。 ・質問の答えだけではなく、グループで調べたことを追加情報として発表する。	・元グループでもリーダーを決めておき、効率よく情報交換や話し合いができるようにする。 ・お互いの発表を認め合いながら話し合いを進めているグループを賞賛する。	
	3分	4 本時の学習を振り返るとともに、次時の学習内容を確認する。		

②授業の実際

T:教師の発問・指示・支援, P:A児・B児・学級児童の発言, O:A児・B児・学級児童の様子, W:ワークシート上の記述

主な学習活動	教師の発問・指示・支援, A児・B児・学級児童の発言, 様子		
	A児	B児	学級の児童
1 前時までの学習内容を振り返り, 本時の学習内容を確認する。	<p>T:今日は6時間目ですね。今日のめあては、質問の答えを、調べて、まとめて、発表することです。前半は課題別グループ情報をまとめ、後半は元グループで発表してもらいます。自分がもらった情報はカードに書きます。アメリカが赤、韓国は黄、サウジアラビアが青です。発表の仕方は、シートを使ってください。</p>		
2 課題別グループで集まり, 前時に出された質問について調べ, 話し合う。	<p>T:では、課題別グループに行って始めましょう。リーダーにしたがってがんばってください。</p>		
	<p>○学習の進め方を聞く。 ○課題別グループの司会を務める。 ・イスラムではなぜお酒が飲めないのですか。 P:答えは3つあります。一つ目はイスラム教で禁じられているからです。二つ目は神様が飲むものだからです。三つ目は酒を飲むと神を忘れるからです。 ・キリスト教では酒の禁止はなかったよね。 ・イスラム教はきびしいきまりがあるんだね。 ・サウジアラビアでは、パパやママを何と言うのですか。 P:パパはアブー、ママはウンマです。 ・ママとウンマは、なんか言い方が似てるね。 ・アブーって、アラジンに出てなかったっけ。 ・ああ、いたいた、おさるさんだったよね。 ・ママとウンマはどっちが先なのかな。 ・サウジアラビアの国旗はなぜ緑色なのですか。 P:砂漠の国だから緑がたいせつなものだからです。 ・リビアなんか緑だけだよ。 ・緑の国旗って、地図帳にはけっこうあったよね。 ・サウジアラビア国旗にごちゃごちゃ書いてあるのは、何と書いてあるのですか。 P:アッラーのほかには神はない、ムハンマドはアッラーの使徒なんです。 ・サウジアラビアの人はみんなイスラム教なんかな。 ・イスラム教は、なんかめんどくさそう。</p>	<p>○学習の進め方を聞く。 ○課題別グループの司会を務める。 P:わかったことをまとめて下さい。 ・まず、宗教。短い人から。教科書を見ればわかるよね。 ・次に輸出入。 ○友だちの発表を聞き、輸出相手国の1～3位、輸入相手国の1～3位までを付箋に書き込み、自分のシートに貼る。 ○自分が調べてきた自主学習のノートを取り出す。 P:おれのハングル文字も書く？ それはきついよね。 ・こっちの方(友だちがまとめたもの)がわかりやすいよね。 ○友だちのまとめたものを写す。 P:おれの文字の由来は書かなくていい？ ・おれのこのページは写して。ハングル文字の。 ・おれのは15分では終わらないぞ。 ・(写すのは)「伝えられました。」まででいいよね。 ・(やはり,)「使われました。」まででいいよ。 ・「漢字がつかわれました。」まででね。 ○友だちが資料を写すのを手伝う。 P:(友だちの発表を聞き,)仏教？ 宗教じゃない？ ○友だちの発表を聞き、反復しながら付箋に書き写す。 P:キリスト教を信仰する人が、39%。カトリック？何それ。カトリックか。 ・プロテスタント(が39%)。カトリックが13%。わからないで書いてるけど、いいやね。</p>	<p>○課題別グループの場所へ移動する。 ○司会を中心に活発に話し合いが始まる。 ○発表シートを活用しながら進行している。 ○前に置いてある資料コーナーの本で調べる児童がいる。 ○熱心にメモをしている。</p>



P: あっ、もう時間ないじゃん。やばいじゃん。どんどんまとめちゃってね。
 ○リーダーとして、グループの一人ひとりの作業状況シートを確認する。書く途中の子が一名いた。
 P: Fちゃんがまだ書いているから待ってあげてね。

○友だちのまとめた簡単な会話文を見る。
 P: おれたちは書かなくていいんだよね。
 ・ハングル文字で書く？
 ・いいよ。「お母さん」は書かなくていいよ。ここに書いてあるから。
 ・この二つ、合わせると長いよ。
 アンニョンハシムニカ。
 アンニョンヒカシブシオ。
 最後、カムサハムニダ。有名だよ。
 ・(付箋を)貼る場所がなくなってしまったよ。
 ○シートの空いている場所に付箋を貼りまくる。
 ○友だちの資料を写す。
 P: プーサム書けよ。

3 元グループで集まり、調べたことを発表する。

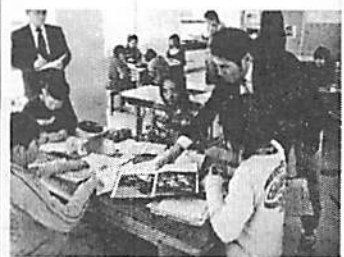
T: では、時間です。自分の資料をもって元グループに集まります。椅子も移動します。

○元グループでも司会を務める。
 P: 私、韓国まだ一枚しか貼ってないんだけど。韓国の情報をもっとやりたいと思います。発表して下さい。
 ・韓国の給食は、毎日キムチがでるよ。
 ・おもちゃをよく食べるよ。
 P: なんか、日本と似てるじゃん。
 ○友だちの発表を聞き、付箋に書き込む。
 P: 韓国語では、パパやママを何て言うの。
 ・パパはアボジ、ママはオモニ。
 P: 韓国の宗教は何？
 ・儒教が盛んで礼儀にうるさい。
 キリスト教や仏教も盛んみたい。
 ・アメリカと日本をまぜたみたい。
 ・次は、アメリカです。質問どうぞ。
 ・アメリカはCO2排出国1位です。2位はEUです。
 P: ねえねえ、EUってどこどこ。絶対略してある。どこだどこだ。
 ○CO2排出国2位のEUに強い関心をもつ。学習対象の3国以外の国々も学びたいという発展的意欲を強く持った。
 ・アメリカのランチは、パン、牛乳、肉、野菜の四つの料理です。
 ・肉が毎日食べられていいじゃん。
 ・でも栄養バランスは。
 ・あっサウジアラビアもやっちゃわわないと。
 ・サウジアラビア、お願いします。

○元グループの司会を務める。
 ○原稿(レジュメ)を読む。
 ○友だちの発表を聞き、付箋に書き込む。
 P: (友だちの発表を聞きながら、)
 カナは人気だな。
 ・三位は中国？いや日本が一。
 ・アメリカの何？料理？ステーキ？
 ・ビーフステーキ。
 ・まじで急いで。
 ・シーフードチャウダー。
 ・タコベル？ ジャンパジュー だつて？
 ○書き写した付箋を貼りだす。
 P: アメフト？(アメフトと野球)どっちがいいと思う？
 ・バスケ？アイスホッケーね。
 ・発表者が言うんじゃない。質問ありますかつてね。
 ・次に韓国です。
 ・はい。質問にお答えします。
 ○シートを見ながら、説明を始める。
 P: ハングル文字で名前を書きました。これです。
 ○ハングル文字を指さして書き方を教える。
 P: ここ、はねない。
 ・次がハングル文字の由来ね。
 ○資料(自主学习ノートに書いてきたもの)を読み、写させる。
 P: 書いた？あと、ちょっと豆知識ね。
 あっ、書かなくていいよ。
 ○資料を読む。
 P: これで発表を終わりにします。ありがとうございました。



○資料を見せながら丁寧に説明している。
 ○友達の発表を質問をしながら真剣に聞いている。
 ○メモをワークシートに貼りつけている。



○資料を読み、写させる。
 ・イスラム教の断食はつらくないの。
 P:断食は昼間だけで、夜はいっぱい食べるから。



・次は、サウジアラビアね。お願いします。
 ○友だちの発表を聞き、付箋に書き込む。
 P: 区別をつけるため？子どものうちからわからせるため？
 ・男女別々のクラス？
 ・(どろぼうは手を切られてしまう話を聞いて)えー。まじで。
 ・速い。で。ちょっと待って。
 ・(交通事故の場合、ひき殺される話を聞いて)おー。
 ・死んじゃった場合ね。ほかには？
 ○(「韓国やっちゃわわない?」を受けて)また説明し始める。
 ・宗教と輸出入、どっちがいい？
 ・輸出入ね。
 ○輸出入の資料を読む。

T:元グループで話し合っ、分かったことを発表してください。

○リーダーとして、発表の仕方を班員に具体的に指示を出す。

P:シエラレオネは超若くして死んでしまうね。

P: モロッコ安すぎるじゃん。

P :ビックマック、799円は高すぎるじゃん。

○教師の話聞く。
 ○友だちの発表を聞く。
 ○次時の学習内容を確認する。
 ○授業終了後も元グループの人たちに説明をしていた。



・平均寿命は
 サウジアラビアが75.4歳、
 アメリカが77.3歳、
 韓国が75.5歳、
 日本が81歳で一番長いです。
 ・中国は71.1歳、
 ブラジルは68.9歳、
 イタリアは61.5歳、
 シエラレオネは34歳です。
 ・マックの数は、
 本場アメリカが13609軒
 日本は3773軒、
 韓国は334軒、
 キューバとサモアは1軒だけです。
 ビックマックの値段は
 日本は262円。
 一番安いのはモロッコで、日本円で28円、
 一番高いのはクウェートで799円でした。

T :いろいろな情報が集まりましたね。自学で進んでやってきたり、自分の質問以外も調べたりと、みんなはよく調べたと思います。では、次時間は実際にアメリカの人に直接聞いてみましょう。

4 本時の学習を振り返るとともに、次時の学習内容を確認する。

P:すげえ。
 ブランドン先生、活躍じゃん。
 ○発展学習に関心を持ち、ゲストチャーに期待をもった。

○えっ！と驚きの声があがる。

③ワークシート

世界には、どんな人々のくらしが見られるの

6年 組 番 名前

	アメリカ	韓国	サウジアラビア
全体	首都 面積 国旗 人口 音楽	首都 面積 国旗 人口 音楽	首都 面積 国旗 人口 音楽
学校			
家庭			
産業			
その他			
質問			

8 考察

(1)「自ら考え判断し、社会に働きかける力を育てる教材の開発」によって、児童にどのような力がついたのか。

①子どもが主体的にかかわり問題解決への意欲を高める実社会の教材開発

<A児>

- ・「よく知らない国だから知りたい」という理由でサウジアラビアを選んだ。飲酒やクリスマス、刑法について、また、お父さんやお母さんの呼び方にいたるまで具体的に調べることができた。

<B児>

- ・韓国を選び、言語について詳しく調べることができた。

<学級全体>

- ・アメリカ・韓国・サウジアラビアの中で、サウジアラビアは児童にとって一番なじみのない国であったため、導入時にはパワーポイントでサウジアラビアのいい面を集めた写真を紹介した。そのため多くの児童が関心を持ち、調べる国を選ぶのにうまく3つに分かれることができた。

②社会に生きる人間の姿を追求できる教材の開発

<A児・B児・学級全体>

- ・アメリカのゲストティーチャーとしてALTを、そして、日本語が話せる韓国のゲストティーチャーを呼んだことで、実際にふれ合い、話を聞くことで、その国の現実を知ることができた。また、直接質問をして疑問を解決し、理解を深めることができた。
- ・韓国のゲストティーチャーから儒教について「家族でも目上の人には必ず敬語を使うこと」などを聞き、子どもたちは自分の家庭と比較し、驚いていた。とても近い国で文化も似ているところが多くあっても、やはりその国独自の文化が存在することを知ることができた。

③今日的な課題や視点を重視した教材の開発

<A児>

- ・日本との関わりについては書けていなかった。

<B児>

- ・「ホームステイするためのガイドブック」という色が強かったため、日本に目が向かなかったようだ。

(2)「自ら考え判断し、社会に働きかける力を育てる学習課程の工夫」によって児童にどのような力がついたのか。

①社会とかかわり、ともに学び、考えを深め合うことができる学習課程の工夫

○社会とかかわりを持って学ぶことができる学習課程

<A児>

- ・「ホームステイ」することを前提にしたことで、生活面や学校生活に目を向けることができた。サウジアラビアにはクリスマスがないことなどを宗教と関係づけて考えることができた。

<全体>

- ・「ホームステイ」することを前提にしたことで、「学び合う・社会に働きかける」段階で、学校と日常生活について多くの児童がパンフレットにまとめることができた。例えば、サウジアラビアでは、女性の服装であるアバヤを着る理由について調べることができていた。韓国では、女性の正しい座り方は片膝を立てるが、日本では行儀が悪いとされてしまうことなど、日本と比較して文化や習慣の違いに目を向けることができた。

○ともに学び、考えを深め合うことができる学習課程

<A児>

- ・「調べる・まとめる」段階では、持ち前のリーダーシップを発揮し、てきぱきとみんなをまと

め、進行することができた。自分が調べた情報をしっかり提供し、他の国には興味を持って質問していた。

<B児>

・普段は発表が苦手なようだが、少人数ということもあり、グループの中では張り切って司会を務めていた。

<学級全体>

・十割参加の授業を目指し、ジグソー学習を取り入れたことで、児童は楽しく、自信を持って学習できた。元グループで自分が調べた国について一人で発表しなければならないため、かなり責任感を持って調べ学習を行うことができた。中には、学校だけでなく、家でもインターネットなどを利用して自分が選んだ国について調べ、ワークシートだけでは情報をまとめきれず、ノートにまでびっちり情報をまとめている児童もいた。さらに、課題別グループで情報交換をしたり、互いに理解が不十分なことを教え合ったり、調べ直すことができたため安心して発表に臨めた。3人という少人数ということもあり、普段はおとなしい児童が大きい声で発表できていた。児童のふり返りシートを見ても、多くの児童が「発表しやすく、楽しかった」「世界の国々のことがよくわかった」と書いていた。

○社会と自分とのかかわりを意識し、学習のめあてを明確にもてる学習問題の工夫

<学級全体>

・「ホームステイ」という筋を通したことで、言語について調べる児童が多かった。「ホームステイするには」どんなことを知る必要があるか、かなり問題意識を持って調べることができた。

<B児>

・初めのアンケートでは、「ホームステイしたくない」と答えていた。家族での海外旅行の経験があり、一人では不安で行きたくないと思ったようだ。しかし、それでも行くとしたら、一人で何とかしなければならないという意識が高まり、ハングルを詳しく調べ、パンフレットにホームステイのポイントをまとめるのを意欲的に行うことができた。

(3)「自ら考え判断し、社会に働きかける力を育てる学習活動と支援、評価の工夫」によって、児童にどのような力がついたのか。

①人と社会とのかかわりを大切にしたい学習活動と支援の工夫

<A児>

・パンフレットにまとめる段階では、サウジアラビアについて、「近代的な大都市」という点に触れている。また、砂漠の気候や女性の服装についても日本と比較し、まとめることができた。

②社会を実感し、考え判断する力を育てる体験的な活動と支援、評価の工夫

<全体>

・「学び合う・社会に働きかける」段階でゲストティーチャーを招いた。事前に質問の項目や話してほしいことをFAXで伝えておいたため有意義な時間となった。ゲストティーチャーにも安心して話をしていただけた。韓国のゲストティーチャーは日本語が堪能であったため、儒教の考え方や、また日常的に使うハングルの「ありがとう」などを教えてもらい、児童は喜んで使い、児童の中に韓国に対する親近感がわいたようだ。

③ともに学び、考えを深め合う活動と支援の工夫

<全体>

・「調べる・まとめる」段階でグループ作りをする際に、リーダーになれる子、サポートできる子、などをうまく教師の方で分けたため、課題別グループ、元グループともうまく機能していた。また、元グループでの発表の場面では、各グループに進行シートを準備したことで、児童が自信を持って張り切って司会を務めていた。さらに、教室ではなく、図工室という広いス

ペースを使い、机の配置などを工夫したことで、課題別グループから元グループへの移行もスムーズで、話し合いを行いやすい場を作ることができた。新しく得た情報については国ごとに色違いの付箋を用いてまとめたことで、今までの情報とは別に、新しい情報として蓄積することができ、効果的であった。

④自ら考え判断し、社会に働きかける力を育てる評価と指導・支援の工夫

<A児>

- ・「学び合う・社会に働きかける」段階では、ホームステイを意識させ、「ホームステイに行きたくなるようなパンフレットにしよう」というアドバイスを与えた。そのため、パンフレットの中に、「いろんなビックリ見つかるよ!」や「ホームステイにおいでよ!」という言葉が書かれていた。

<B児>

- ・「調べる・まとめる」段階で、自主的に調べてきた内容については教師が必ず確認し、朱書きを入れた。教師からの賞賛もあり、意欲が増し、自主学習の成果も生かすことができた。

<全体>

- ・「学び合う・社会に働きかける」段階でホームステイのためのパンフレット作りをした。児童はこれまでに色々な場面で新聞作りを経験してきたこともあり抵抗なく作業に取りかかれた。A4一枚にまとめたため、「調べる・まとめる」段階でとにかくたくさんの情報を収集したが、その中からホームステイをするために必要な情報を取捨選択させることができた。また、グループの中で交換して読み合い、作成途中でも情報交換をしてもいいことにしたため、多くの児童がポイントを押さえたまとめ方ができていた。

9 研究の成果と今後の課題

(1) 研究で明らかになったこと

- ① 自ら考え判断し、社会に働きかける力を育てる教材の開発について
 - ・ 3つの国の選択および調べ学習は教科書をベースにした。教科書をベースにしたことでどの国についても基本的な資料がそろい、それぞれの国について調べやすくなった。また、児童同士の情報交換もしやすくなり、主体的な活動が展開された。
 - ・ ゲストティチャーの活用によって、思考が深まった。ゲストティチャーに質問することで調べた上で出てきた疑問が解決された。さらに外国で暮らす上での不安や悩みなどを聞いたり新しい発見があったりなど、問題意識をもつことができた。
- ② 自ら考え判断し、社会に働きかける力を育てる学習過程の工夫について
 - ・ ジグソー学習を取り入れたことで共に学び深め合う学習が進められた。児童は自分が調べることに対して責任をもって取り組み、主体的に活動することができた(10割参加)。同じ課題の児童と意見を交換しあうことによって活動が深まり、積極的に意見を発表することができた。また、友達がしっかり聞いてくれることが自信につながり成就感を味わうことができた。
 - ・ ホームステイをするという視点を与えたことによって、活動意欲が持続した。また、視点がはっきりしているのでパンフレットづくりの時には、たくさんあった情報も取捨選択しやすかった。
- ③ 自ら考え判断し、社会に働きかける力を育てる学習活動と支援、評価の工夫について
 - ・ 振り返りシートを教師が確認することによって、児童の進み具合や何をおさえていけばよいのかなどが分かりやすかった。また、内容や表現力についての賞賛やアドバイスなどを朱書きすることで児童の意欲が増し、主体的な活動になった。

(2) 夏季大会で討議してほしいこと

- ・ なじみが少ない国や興味関心の低い国については、導入時に写真を中心としたプレゼンテーションを行った。また、ホームステイをしたくないという児童もいたので、ホームステイ経験者の話をビデオで紹介した。興味・関心の低い児童にはどのような支援ができるだろうか。

(3) 今後の課題

- ・ 国際社会の一員としてのあり方を教える場をどう設定し、児童にどのように意識づけるたらよいか。

評

栃小教研足利支部は、「よりよい社会を築こうとする子どもを育てる社会科学習」を研究主題とし、特にかかわりに視点をあてながら研究をすすめられました。

主な成果を社会科での授業力の視点から述べさせていただきます。

○ 社会科の目で子どもを理解することに努めています。

まず、子どもが何に驚き、何を考え、どのような問題意識を抱いているか、子どもの実態の把握に努めています。

特に、足利支部では、日本とのつながりの深い国をねらいに沿った教師の意図で3ヶ国を選び、どの子にも一定の情報を蓄積させています。そして、一番蓄積情報の少ないサウジアラビアに関しては、導入時により面を集めた写真を紹介しています。この社会科の目で子どもを見て、基礎・基本を押さえた導入により、対象児Aは「よく知らない国だから、知りたい」と、選択学習場面では、サウジアラビアを選び、「知りたい」という意欲の向上が見られました。

○ 社会科の基礎・基本を押さえた授業構想に努めています。

次に、授業構成を見ると、この単元を通して展開されているのが、「ホームステイしたい国を選んで調べよう」というというストーリー構成になっています。ただ単に3つの国から一つ選ぶのではなく、ホームステイという設定により、子どもたちは、どのようにしたらホームステイがうまくいくのか考え、主体的な学習の展開が予想できます。対象児Bは海外旅行経験者ゆえ、一人で行くということに不安があり、「ホームステイしたくない」と、答えていたようですが、ホームステイ経験者の話も聞いて、「何とかしなければ」と前向きな意識になり、その後意欲的に取り組めたということです。互いの文化や習慣を知って、理解し合うことの大切さがわかり、小単元の目標も達成されています。

○ 子どもの側に立った授業展開を重視しています。

最後に、学習過程では、ジグソー学習を取り入れています。責任感から意欲的な学習と少人数での学び合いができ、どの子にとっても主体的な学びが展開されています。成果の背景には、日常から子どもの実態を把握し、グループ学習が成立するような教師が配慮した班編制にあります。

このように、子どもの側に立った学習展開により、自然に日本との比較を行い考えを深める学習が展開されていました。

「教師は授業で勝負する」といわれますが、分かる授業のため、本研究を多くの方が追試されるとともに、栃小教研社会科部会のますますの発展をご祈念申し上げ評といたします。